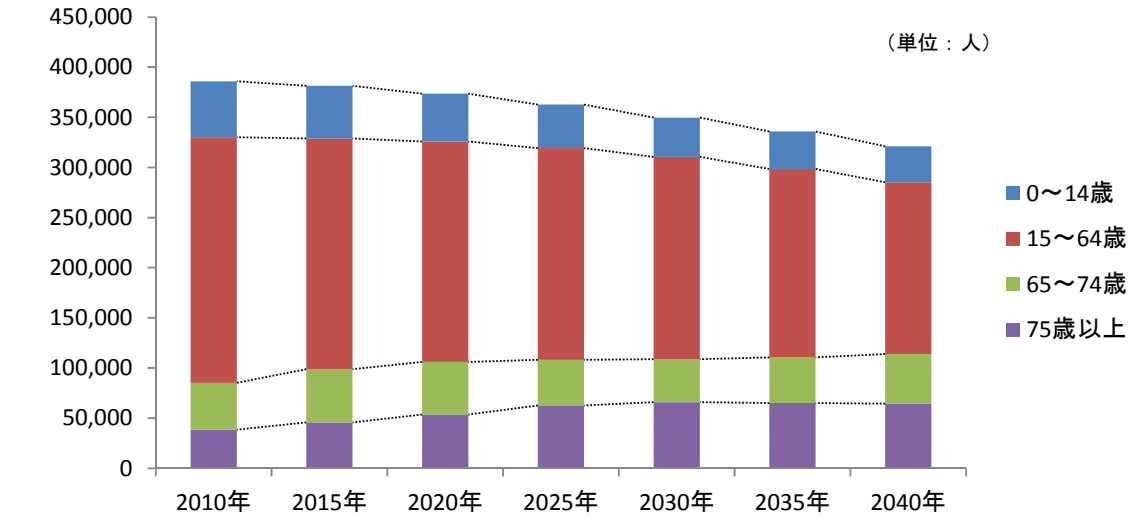


1 人口構造の変化の見通し

- ・2010年の人口は約38万6千人である。本県の8医療圏の中で、賀茂及び熱海伊東に次いで3番目に少ない人口規模である。
- ・2040年には人口が約17%減少する。一方で、65歳以上人口は、2025年には10万人を超え、2040年まで増加する。このうち75歳以上人口は2025年に向けて約62%増加し、2035年からは減少に転ずる。



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
0～14歳	55,944	52,419	47,715	43,265	39,470	37,291	35,798
15～64歳	244,805	230,175	219,591	211,250	201,530	187,924	171,380
65～74歳	46,756	52,986	52,549	45,660	43,064	45,535	49,484
75歳以上	38,523	45,827	53,615	62,468	65,806	65,052	64,283
総数	386,028	381,407	373,470	362,643	349,870	335,802	320,945

2 構想区域の現状と課題

○医療提供体制・疾病構造・患者の受療動向

- ・圏域内には病院が19病院ある。このうち、病床が200床以上ある病院が3病院ある。
- ・圏域内の医療機関に従事する医師数は521人である。人口10万人当たり135.4人であり、全国平均(237.8人)、静岡県平均(193.9人)と比べ、医師が特に少ない医療圏である。※厚生労働省による平成24年12月31日時点における調査による。
- ・圏域の標準化死亡比(静岡県全体を100としたときの死亡比)は、糖尿病、喘息、肝疾患、自殺、悪性新生物が高い水準である。
- ・県内の圏域間における流出入状況については、慢性期機能を除き、隣接する圏域への流出が超過している。

○基幹病院までのアクセス

- ・第2次救急医療については、6病院の輪番制で対応している。整形外科患者については、富士宮市立病院の診療体制の縮小に伴い、圏域内の病院のほか、隣接する医療圏の病院への搬送により対応している。
- ・第3次救急医療については、圏域内に救命救急センターがないため、重症患者は隣接する医療圏の救命救急センターへ搬送されている。

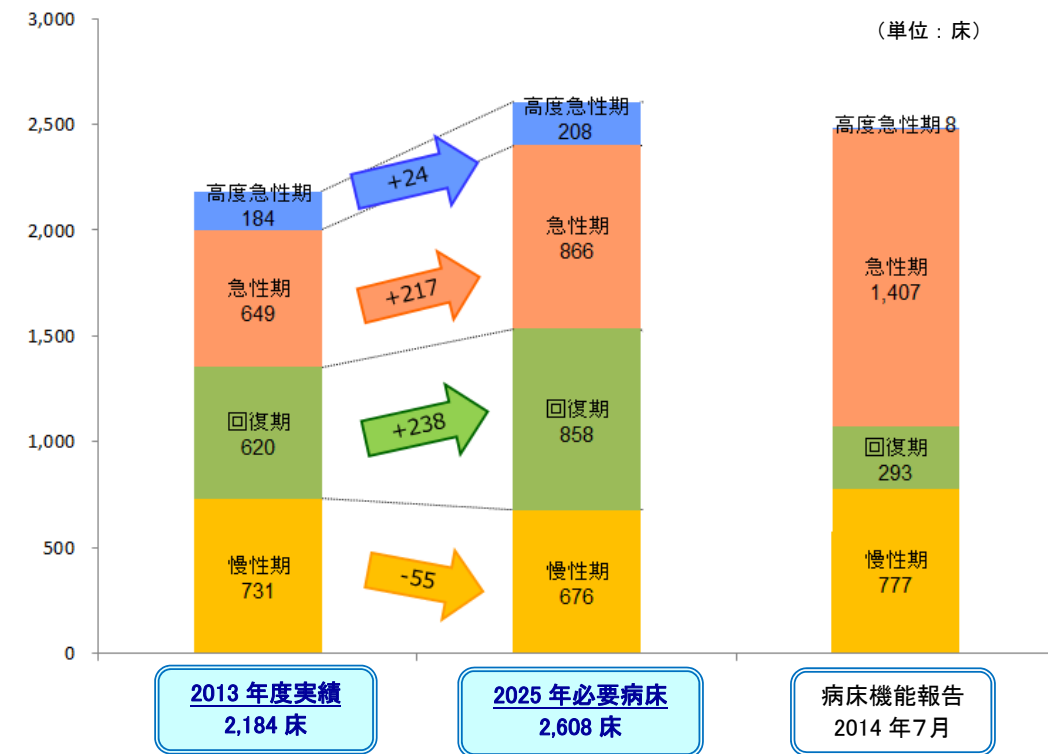
○平成26年度以降の状況変化と今後の見込

- ・独立行政法人国立病院機構静岡富士病院(175床)が静岡医療センター(駿東郡清水町)に統合される予定。(平成28年度中)

3 医療需要と2025年のあるべき医療提供体制

○2025年の必要病床数

- ・2025年の必要病床数は2,608床。2013年度実績から424床の充実が必要になると推計される。
- ・高度急性期は24床、急性期は217床、回復期は238床の充実が、慢性期は55床の転換等が必要になると推計される。
- ・2025年の必要病床数のうち、高度急性期、急性期、回復期の小計は1,932床、慢性期は676床。



○2025年の在宅医療等の必要量

- ・2025年に向けて、在宅医療等の医療需要は1,316人、うち訪問診療分について542人増加すると推計される。
- ・2025年の在宅医療等必要量のうち、訪問診療分の内訳は約46%。

